

経常収支比率 87.5%

基礎となるデータ

資料：市町村別決算状況調【市町村普通会計決算の分析】

資料：岩手県市町村概要 資料集行財政編

- 経常一般財源総額 : 平成17年度 8,959,197千円
- 経常経費充当一般財源: 平成17年度 7,841,087千円

算 出 式

経常収支比率＝

経常経費充当一般財源 ÷

(経常一般財源総額 + 減税補てん債 + 臨時財政対策債) × 100

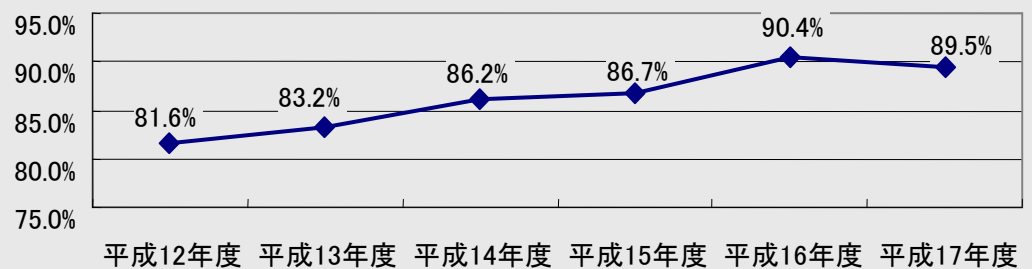
指標の表す意味

毎年の使途が決っていない収入財源に対して、容易に縮減できない、義務的に支払う経費の比率であって、財政の硬直度高、逆にいえば余裕度合を示します。家計費に置き換えると、給料に対する食料費、教育費、住宅ローンなど絶対支払わなければならない費用の比率で、高ければ高いほど旅行、趣味娯楽、貯金などに回すお金がなく、家計費に余裕がないということになります。

指標の重要性

村税、地方交付税などの経常的に収入される財源が、人件費、扶助費、公債費などの義務的な経常経費に対してどの程度充当されているかを見て、財政構造の弾力性を判断します。経常収支比率が低ければ弾力性があり、財源的に余裕があるとされます。一般的に70%～80%に分布するのが標準とされており、80%を著しく超える地方公共団体は硬直化しているので、その原因を究明し、経常的経費の抑制に努める必要があります。

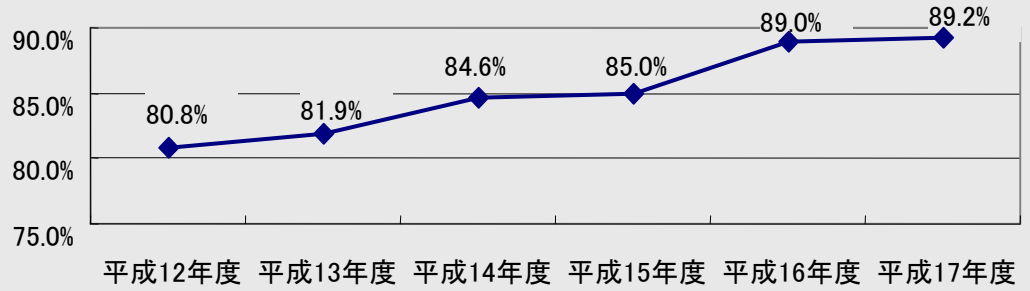
全国 の推移



資料：市町村別決算状況調【市町村普通会計決算の分析】(平成12年～平成17年)
財団法人 地方財務協会刊

※数値は、全国市町村の単純平均です。

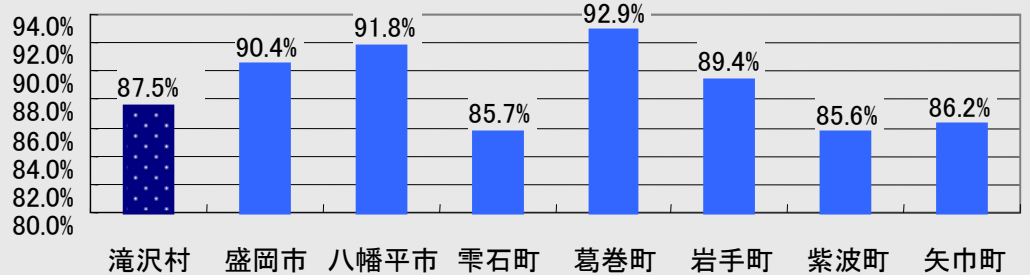
岩手県の推移



資料：岩手県市町村概要 資料集行財政編

岩手県地域振興部市町村課 編集、財団法人 岩手県市町村振興協会 発行
 ※数値は、岩手県内全市町村の単純平均です。

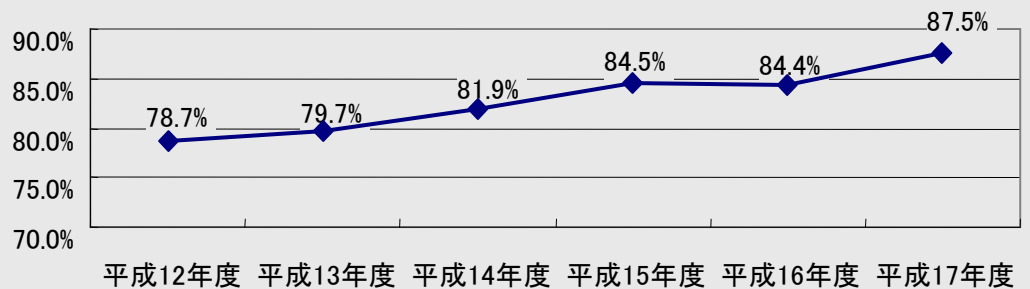
近隣市町村との比較



資料：市町村別決算状況調【市町村普通会計決算の分】(平成17年)

財団法人 地方財務協会刊

滝沢村の経年比較



資料：市町村別決算状況調【市町村普通会計決算の分析】(平成12年～平成17年)

財団法人 地方財務協会刊

動 向

本村の経常収支比率は、平成12年度の78.7%から徐々に増加し、平成17年度は87.5%となっており、財政に余裕のない状態となっています。これは、人口の増加とともに、扶助費や物件費などの経常経費が膨らんできていることが原因として上げられます。

村の対応

国の三位一体改革の実施に伴う地方交付税の抑制により、地方財政は逼迫している状態にあります。村では、厳しい財政状況のもとで、住民のみなさんに対する説明責任を果たしつつ、中長期を見据え、社会経済環境の変化や行政ニーズに的確に対応しながら、各種施策目的の着実な実現を図っていきます。